

# 小中学校の授業支援と シニアの生きがいづくり

宮崎県延岡市 特定非営利活動法人 学校支援のべおかはげまし隊

## はげまし隊のはじまり

最初は一人のスクールソーシャルワーカー（SSW）の思い付きだったという。

「学校は、あと何人か、子どもたちを見守ってやれる大人がいれば、もっとよくなるのではないか？」

「では、そんな見守りをしてくれる大人はどこにいるのか？学校に入るからには誰でもいいというわけにはいかない」

「そうだ、地元の大企業に相談してみよう」

相談を受けた支社長は、その会社のOB会を紹介した。OB会には元氣なシニアがたくさんおられ、地域貢献活動に精を出していた。理数系に強いおじいちゃんたちの新しい活躍の場として、学校の授業支援はピッタリだっ

たに違いない。とはいえ、前例のない取り組みだったため、受け入れ校の選定も、ボランティアさん集めも簡単ではなかった。紆余曲折を経て2009年10月に「のべおかはげまし隊」が発足した。

当時、文科省は「学校支援地域本部事業」として、地域人財の力を学校で生かす取り組みを進めていた。「のべおかはげまし隊」は、その事業の一環として延岡市立岡富中学校に導入されることとなった。中学校1年生の数学の授業に、シニアボランティアがシフトを組んで毎回入り、「みまもり・よりそい・はげまし」を基本姿勢として子どもたちの学びをサポートした。



【理解サポート型】授業中、子どもの理解をサポート





【子どもラーニング型】英語を一緒に学ぶ



【理解サポート型】夏休みの課題に取り組む子どもをサポート

## はげまし隊の活動内容

授業の前半、先生が説明を行っている場面では、隊員は教室後方に着席して子どもたちと一緒に授業を受ける。後半、演習問題を解く段になると、隊員は一斉に机間巡視を始め、問題が解けなくて困っている生徒に声かけしたり、必要に応じてヒントを与えたりする。先生の意向によっては丸付けをすることもあつる。この活動の際に、隊員は「惜しいなあ!」「わあ、よくできているね」など、子どもたちを励まし、勇気づける言葉かけをするのだ。

この時のふれあいが、隊員、子どもたち、双方によい効果をもたらしている。隊員は、自身が出したヒントによって子どもが「あ、わかった!」と顔を輝かせる瞬間がたまらないと言つる。子どもたちは、隊員のヒントのおかげで、つまづいていた問題が解けるようになって嬉しつと言つる。さらに言うなら、先生おひとりでは、なかなか生徒全員を見て回るのが難しつところを、隊員が居てくれることで助かっているという声も聴く。まさに「三方良し」の活動なのである。

当時から、活動内容は数学の授業支援にとどまらなかつた。定期テストが近づいてくれば夏休みに「テスト前学習会」を行い、少しでもいい点数が取れるよう、希望する子どもたちの学習を支援した。数学以外にも理科の担

当隊員がいて、「びっくり実験教室」と銘打つて、風船や空き缶など、身近なものを使つた理科実験を特別支援学級を対象に行つた。

## はげまし隊の広がり

のべおかはげまし隊は評判を呼び、2年後の2011年に2校目が導入すると、年を追う毎に、4校、8校と急速に広がつていった。だんだん、一企業のOB会だけでは賄いきれない規模になつたため、人的にも経済的にも、広く市民の協力を得るために、2012年8月に「NPO法人学校支援のべおかはげまし隊」が設立された。

同時に法人が隊員を募集、登録、派遣する仕組みも整備され、2024年現在、隊員159名が登録、市内12中学校と5小学校にそれぞれ派遣されている。隊員のほとんどは自身の居住地を校区とする学校で活動しており、文科省が進める「地域学校協働活動事業(先述の学校支援地域本部事業の後継事業)」の一環とも捉えられている。

2023年には、学校のニーズに応えるために支援対象教科を「全教科」に拡大した。また、隊員の活動の幅を拡げ、応募しやすくすることを目的に活動の仕方を「理解サポート型」「学習アシスト型」「見守りウオッチ型」「子どもとラーニング型」「ゲストティーチャー型」

の5つのタイプに分類し、いろいろな関わり方ができるようにした。コロナの5類移行と相まって新規隊員登録者が少しずつ増え始めたところである。

### はげまし隊の効果

この活動の効果は、先にも触れた通り、様々なところに表れている。

子どもたちの健全育成に必要な「ナナメの関係(タテ親、教員でもなく、ヨコ友だちでもない、地域のおとな)」を隊員たちと子どもたちが築くことにより、子どもたちの情緒の安定が図られ、ちょっとした躓きを子どもた



【見守りウォッチ型】プール監視

ちが隊員と共に解決することで、自信に繋がっている。また、自分たちのために懸命に活動するシニアの姿は子どもたちにとって生きたキャリア教育になっている。一方先生方からも、頑張る地域のシニアの活動に助けられ、励まされているとの声が増えてきている。

そして、隊員たちからは、定期的に(平均週2日)活動することで、生活に張りが出て、身だしなみや酒量にも気を遣うようになったとの声も多い。最初は「地域の子どもたちのためなら」と始めた活動が健康維持にも一役買っているようだ。また、この活動がシニアの生きがいづくり、居場所づくりになっていることは言うまでもない。



【学習アシスト型】調理実習見守り

これらの声は、毎年行っているアンケートや「はげまし隊川柳」にも顕著である。以下、たくさんのご応募のなかから令和6年度の入賞作品を紹介したい。

#### 【生徒の部・児童の部】

・はげまし隊「なぜ？」を「そうか！」に変えるプロ

・じゅぎょう中 丸つけドキドキ はげまし隊

・応援を されると心の 火がともる

・難問が 解けた瞬間 ハイタッチ

#### 【隊員の部】

・「ずっと来てよ」 笑顔で言われ 涙ぐむ

#### 【職員の部】

・指名制 はげまし隊の 取り合いに



【ゲストティーチャー型】「地域を知る」講話